

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34315
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2011～2012
 課題番号：23730478
 研究課題名（和文） 病者・障害者における当事者運動組織のネットワーク形成と「国際化」に関する研究
 研究課題名（英文） The Effect of Internationalization and Network Formation on Social Movement Organizations of persons with Illness and Disabilities
 研究代表者
 渡辺 克典（WATANABE KATSUNORI）
 立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストドクトラルフェロー
 研究者番号：60509181

研究成果の概要（和文）：

病・障害をもつ人びとによる当事者団体運動を社会運動における政治的アクターとして位置づけ、福祉国家体制における当事者運動組織間ネットワークについて研究した。国際障害者年や障害者権利条約をめぐる病・障害当事者活動を、1970年代の公害問題、薬害問題、障害者問題等をめぐって形成された社会運動組織との連続性のなかでとらえた。成果については、論文発表、国内外での報告のほか、公開シンポジウムなどを開催した。

研究成果の概要（英文）：

This research positioned the social movement organizations of persons with illness and disability as a political actor, and surveyed about the network between the organizations in an international effect. The study analyzed the organizations activities with an international events (eg. the International Year of Disabled Persons, the Convention on the Rights of Persons with Disabilities) and organizational networks formed from the 1970s and onward (eg. the pollution problem, the harmful effects of medicines, the social problem of disability). These results published a symposium, reports, and on the website.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：当事者運動、組織間ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

(1) 病者・障害者による当事者運動は、福祉国家における厚生行政という共通した社会背景をもっている。しかし、日本における当事者団体のネットワークについて十分な研究がされてきたとはいえない。社会学では、薬害被害者の研究、「青い芝の会」神奈川県連合会や障害者解放運動をめぐる研究、自立生活運動に関する研究、福祉 NPO に関する研究、セルフヘルプ・グループに関する研究

などがおこなわれてきたが、これらの研究はそれぞれの疾患・障害の枠組みの中で研究されてきた。

これらの研究は、病者と障害者による活動を異なる活動としてとらえ、その共通点を探索してこなかった。だが、イギリスにおける障害学は、障害というカテゴリーと慢性疾患患者の共通点に着目するようになってきている（C. Thomas, 2007, *Sociology of Disability and Illness*）。申請者による病者・障害者の当事者運動の比較研究（科学研究費

補助金・若手研究(B) 課題番号:21730410
課題名「病者・障害者の当事者運動に関する比較研究」)において、病者・障害者の双方においてネットワーク形成を通じた政策への参画がみられ、また、国外の当事者団体の活動を積極的に取り入れるなど、国際的な活動がさかんになされている共通性が見いだされた。以上の経過から、病者・障害者による当事者運動組織のネットワーク形成と「国際化」を視野に入れた研究が必要であると考えた。

(2) 障害者については、障害当事者団体が多くを占める国際障害連盟(IDA)は国連における障害者権利条約の採択(2006年)に対して大きな役割を果たした。また、日本においても、当事者団体である障害者インターナショナル(DPI)の役員であった東俊裕氏が「障がい者制度改革推進会議室」の室長として選出された。国内外において、福祉行政に対する当事者団体のもつ意味がおおきくなってきている。

(3) 病者については、難病・慢性疾患患者による患者団体は長い歴史をもっている。患者団体の多くは当事者・家族の情報交換や交流を目的としているが、スモンやHIVのような薬害問題においては社会運動組織として活動する組織があり、医師会や健保連(健康保険組合連合会)などととも医療に関するアクターとして活動している。政治学では難病対策における患者組織についての研究があるが(衛藤幹子『医療の政策過程と受益者』信山社1993年)、その後、患者団体や家族団体の統一組織として2005年に結成された日本難病・疾病団体協議会(JPA)のような新しいネットワークが形成されてきている。

(4) しかし、日本における当事者団体のネットワークについて十分な研究がされてきたとはいえない。社会学では、薬害被害者の研究、「青い芝の会」神奈川県連合会や障害者解放運動をめぐる研究、自立生活運動に関する研究、福祉NPOに関する研究、セルフヘルプ・グループに関する研究などがおこなわれてきたが、これらの研究はそれぞれの疾患・障害の枠組みの中で研究されてきた。こういった側面は、それぞれの団体を総合的にとらえてこなかった当事者運動研究では十分にとらえられてこなかった。

2. 研究の目的

難病・慢性疾患患者による当事者組織はおもに情報交換やセルフヘルプ活動を中心としているが、それらの組織を統合した団体において政治的な活動を展開している。組織間ネ

ットワーク化による活動はおもに国内で政策への参画を担いながら、国際的なネットワーク化がみられるようになってきた。本研究は、これらの病者・障害者による当事者団体に共通したネットワーク形成とその新たな展開としての「国際化」の影響を明らかにすることを目的とする。

社会運動組織(SMO)研究において、両者は同じ枠組みの中で分析することが可能である。H. クリージのSMO分類に沿って、病者によるセルフヘルプ活動団体、薬害問題の社会運動組織、各種の協議会や連合体、さらに障害者インターナショナル(DPI)などの活動を統合的にとらえることができる。両者を福祉国家における社会運動活動としてとらえることで、現代における当事者運動について分析することが可能である。

このときとくに重要となるのが、各団体を統合した団体である協議会・連合とよばれるネットワーク組織である。難病・慢性疾患患者による当事者組織はおもに情報交換やセルフヘルプ活動を中心としているが、それらの組織を統合した団体において政治的な活動を展開している。組織間ネットワーク化による活動はおもに国内で政策への参画を担いながら、国際的なネットワーク化がみられるようになってきた。本研究は、これらの病者・障害者による当事者団体に共通したネットワーク形成とその新たな展開としての「国際化」の影響を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、社会運動の構造的な要因として組織間ネットワークを位置づけ、社会運動組織のネットワーク形成とその影響を明らかにする。

(1) 当事者運動組織とその活動の全体像を把握し、それぞれの運動組織団体の活動内容とその特徴を明らかにする。活動内容については、イベント分析を中心として、さらにチラシ定期的に刊行している会報などを収集し、当該組織の運動目的とともに、イベントにおける他組織との共催・協賛関係の推移についても把握する。

(2) 代表的な協議会・連合(国際障害者連盟、障害者インターナショナル、日本難病・疾病団体協議会など)について、運動組織団体間の組織間ネットワークから活動内容やその影響について明らかにする。

4. 研究成果

イベント分析、組織間ネットワークを中心

として、基礎資料の収集、分析をおこなった。また、調査期間中に東日本大震災が生じ、病・障害当事者団体間での災害支援活動をめぐる新たな活動もおこなわれたため、それらの活動についても調査をおこなった。これらに関する一部のデータ、震災に関するイベントについては社会的意義も大きいと判断したためウェブでの公開につとめた。

(1) イベントデータについては、野宮大志郎・西城戸誠によって形式化された方法(「社会運動イベントデータベースの構築」『北海道大学文学研究科紀要』102号)を用いて朝日新聞記事検索サービス『聞蔵II』を利用してデータベースを構築した。分析結果については学会論文等に投稿予定であるが、組織間ネットワークと「国際化」については、日本において次のような活動の特徴がみられた。

1960年代の公害・薬害問題、1970年代の障害者運動ののち、「障害者の権利宣言」(1975年)、国際障害者年(1981年)をうけて国際的な活動がなされるようになった。

自立生活(Independent Living)運動などの影響をうけたセルフヘルプやピアといった視点が導入され、病者や障害者の両者においてアメリカやヨーロッパとの交流、さらに民間援助などをうけたアジア交流などを中心とした活動がみられるようになった。

障害者権利条約(2006年)をきっかけとした国内法の整備・制定は、病者・障害者による共同的な組織活動にも結びついていった。

(2) 日本の福祉政治における中央-地方関係について、愛知県を中心とした研究をおこなった。1960年代から70年代に移行する日本社会において、福祉をめぐる制度の改革・見直しがすすんだ。愛知においては、公害問題、具体的には名古屋市南部を中心とした名古屋港の臨海工業地帯の公害、交通公害(高速道路問題)などを背景として、名古屋市に「革新自治体」が成立した。革新自治体の成立を「政治的機会」として、愛知では「ゆたか福祉会」(全国団体であるきょうされん(旧称:共同作業所全国連絡会)につらなる団体)、「わっぱの会」(特定非営利活動法人 共同連につらなる団体)さらに「AJU自立の家」が成立した。それぞれの団体をめぐって、地方政治や全国規模での活動において対立や協同の歴史を明らかにした。

(3) 国際障害者年と同年にシンガポールで設立された組織である DPI (Disabled Peoples International) は「われら自身の声(A Voice of Our Own)」を掲げ、障害当事者による国際的な活動をおこなっている。日本において、DPI は障害者権利条約をめぐるイベントを活動するようになった。ま

た、韓国 DPI については、女性障害者の問題について日本の当事者活動に影響をあたえているのと同時に、共同連などとの関係形成もみられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

著書名:後藤悠里・渡辺克典、論文標題:「東アジアにおける障害者差別禁止法の制定過程 香港と韓国と質的調査より」、雑誌名:川端美季・吉田幸恵・李旭編『生存学研究センター報告 障害学国際セミナー2012 日本と韓国における障害と病をめぐる議論』、査読:無、号:20、発行年:2013年、ページ:120-129

著者名:渡辺克典、論文標題:「愛知の/から障害者運動を考える(特集I 愛知における障害者運動 労働をめぐるとりくみと現代的意義)」、雑誌名:『障害学研究』、査読:無、号:8、発行年:2012、ページ:10-14

著者名:渡辺克典、論文標題:「国際研究調査報告 障害者をめぐる日韓組織間連携への取り組み」、雑誌名:『生存学』、査読:無、号:5、発行年:2012、251-253

著者名:渡辺克典、論文標題:「書評 櫻村愛子著『臨床社会学ならこう考える』(青土社、2009年)」、雑誌名:『東海社会学会年報』、査読:無、号:3、発行年:2011、77-79

著者名:GOTO, Yuri, Katsunori WATANABE and Kazuhisa NISHIHARA、論文標題: "Theoretical Possibility of Social Movement: On the Thoughts of Koichi Yokozuka and 'Aoi Shiba no Kai'", 雑誌名: Colloquium: The New Horizon of Contemporary Sociological Theory、査読:有、号:6、発行年:2011年、ページ:171-185

[学会発表](計10件)

発表者名:渡辺克典、発表標題:「障害をめぐる日韓組織間連携」、学会名等:富山大学「東アジア「共生」学創成の学際的融合研究プロジェクト」+立命館大学生存学研究センター共催公開企画ワークショップ「東アジアにおける障老病異を思考する価値」発表場所:立命館大学(京都)

発表者名:後藤悠里・渡辺克典、発表標題:「東アジアにおける障害者差別禁止法の制定過程 香港と韓国の質的調査より」、学会名等:障害学国際セミナー2012、発表年月日:2012年11月23日、発表場所:ソウル(韓国)

発表者名:渡辺克典、発表標題:「シンガ

ジウム「施設の現在」のねらい」、学会名等：
東海社会学会 第5回大会シンポジウム「施
設の現在」、発表年月日：2012年7月14日、
発表場所：愛知大学（愛知県）

発表者名：渡辺克典、発表標題：「吃音の
社会文化的研究とその影響」、学会名等：第
2回障害学国際研究セミナー、発表年月日：
2011年11月9日、発表場所：立命館大学
（京都府）

発表者名：渡辺克典、発表標題：「愛知の
ノから障害者運動を考える」、学会名等：障
害学会 第8回大会シンポジウム・基調報告
「愛知における障害者運動 労働をめぐ
るとりくみと現代的意義」、発表年月日：
2011年10月2日、発表場所：愛知大学（愛
知県）。

発表者名：渡辺克典、発表標題：「言語障
害者の当事者運動 吃音者「言友会」の
歴史と現在」、学会名等：韓国国際障害学学
術会、発表年月日：2011年7月9日、発表
場所：ソウル（韓国）

発表者名：渡辺克典・後藤悠里、発表標題：
「中部圏の障害者運動 1960年代から
1980年代のゆたか福祉会、わっぱの会、
AJUを中心に」、学会名等：韓国国際障害学
学術会、発表年月日：2011年7月9日、発
表場所：ソウル（韓国）

〔図書〕（計1件）

著者名：西原和久・保坂稔編、著書名：『増
補改訂版 グローバル化時代の新しい社会
学』、出版社名：新泉社、発行年：2013年、
総ページ数：303（担当：36-39、108-111、
234-235）

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.arsvi.com/w/wk06.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 克典 (WATANABE KATSUNORI)

立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストド
クトラルフェロー

研究者番号：60509181

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし